

〈東京支部〉  
**日常の学生との  
 コミュニケーションと学生相談**

前回、関東学院大学における「学生支援室」の取組を紹介した。同室の山崎学生支援室室長は残る課題の一つとして、「悩みをかかえつつも相談に踏み切れない学生を見つけねばならない」と話された。難しい問題である。

その後「生連協」役員校の目白大学を訪ねたが、職員の方が揃いのTシャツ姿で業務をしている。梅村学生課長に訊ねると職員の方も学生と試合をするスポーツフェスティバルを開催しているとのこと。職員の方も参加するイベントは新鮮で、「相談できない学生」に対する一方策にもなるのではと興味を持った。イベント実施の経緯や、学生とのコミュニケーション作りといった取組について伺った。

【教職員参加型イベントの実施と日常の対応】

表のようにスポーツフェスティバルの他にも、いろいろな行事が実施されている。主に学生自治団体、(学生会、文化連合会、体育連合会、留学生会、大学祭実行委員会)を中心に運営されるが、一般学生も企画から参加できるもの

もある。全ての学生が何かに一回でも参加できる機会を得られるよう、イベントも多く企画している。大学と学生の共同イベントもあるが、大半のイベントは学生からの声で企画、運営がなされている。

学生、教職員とも会費制のものもある。大学の歴史はまだ七年だが、大学祭は短期大学部との合同開催で通算三七回を迎え、近隣地域の方々の参加も増加し「地域のお祭り」としても定着してきた。七夕祭も八年目を迎え、文科系クラブの発表の場であるとともに初年度から続くバーベキュー大会も好評で、学生と教職員共に楽しくバーベキューを頬張っている。一年生は、入学後すぐにフレセミがある。本学では一年生一〇人に対し一人の上級生が世話係として付き、大学生活や履修・クラブ活動の説明をし、一日でも早く馴染めるように指導している。また、この時に担任教員とのコミュニケーションも図れる。二泊三日のフレセミには、学科、学部、学部・短大合同のプログラム等があり全学を通して教職員、学生が互いに交流し打ち解けるまでには時間がかからない。それでも中には卒業まで

表 年間の主なイベント

4月	フレッシュマンセミナー (新1年生対象) (フレセミ) リーダー学生に感謝する会 留学生歓迎会
5月	スポーツフェスティバル
7月	七夕祭
8月	サマーキャンプ
9月	留学生研修旅行
10月	桐和祭 (大学祭)
12月	納会 クリスマスパティー
2月	リーダーキャンプ
3月	卒業記念パーティー

「通過学生」になってしまいう学生も居り、学生課としては一人でも多くの学生に声をかけることを目標としている。何かの時は「学生課に行けば何とかなる」という『安心感』を学生に伝達したい。

学生課では、ごく一般的な相談や事務といった多様な日常業務を行っているため、ともすると、そつけない対応をしてみいがちである。窓口では課員と学生は1対1の関係であることを忘れずに、一人一人に合わせた丁寧な対応を心がけている。日常から学生の動向を気にかけて、一人でも多くの学生と接し、学生間の多くの情報を収集する努力をし、学生の目線でもより良い大学生活を送る手助けを行う。また学生に対し、いずれの職員も同じスタンスで対応ができるよう課員同士も常に情報は共有している。大学としてのあり方や立場、学生課職員としての対応はより大切になっていくと思われる。

【関係者が連携して効果的な相談を】

「相談窓口」という看板は出していないが、これらの取り組みから学生課へはメンタルな相談から井戸端会議の様な話まで、毎日のように学生達は持ち込んで来てくれる。しかし学生課職員から声をかけて相談が始まることもある。どうしてよいか判らず相談もできなかった学生も、声をかけたことで、深刻な問題になる前に解決することもある。

本学は心理カウンセリング学科がある関係から、心理カウンセリングセンターが設置され、カウンセラーによる学生相談室を開設している。学生課で話を聞き相談室に紹介する者、保健室と連絡を取り合い経過を見る者、学生課職員と話をし解決、安心する学生といろいろである。

学生課職員と担任、保健室、相談室、時には父母との連携がとても大切であろう。いつ、どの時点で学生の相談先を適切に指示できるかが一番大切な鍵となる。この指示が的確であれば「通過学生」も増えることはないであろう。

「通過学生」が多いと大学のアイデンティティーは育たず、学生も学生としての存在意義を持たず、学生生活は楽しくなくなる。最近の学生は協調性に欠けるが一人で行動するのも苦手である。結局小さな単位で行動し、その居場所から抜けてしまうと、次の居場所をなかなか見つけられずメンタル的に落ち込んでしまうこともある。卒業まで一人で学生生活を送る学生の中には見うけられる。人との交りが苦手な学生が多くなった中で、互いに関わるきつかけを作ることが重要であろう。何かに関わることであれば学生にとって大きな励みになると考えている。

今後ともこういった大学の取組を伺い、現代の学生気質と、大学の対応、成果について検証していきたい。